

オーストラリア感想文

2 年 N さん

私が留学研修プログラムに参加したいと思った理由は、自分の視野を広げたかったからです。海外に行った事がなかったので全てが未知でした。だからこそ、実際に目でみて他文化を感じたいと思いました。また、ずっと苦手意識を持っていた英語を克服したかったからです。

行く前は楽しみの何倍も不安が大きかったけれど、2週間をオーストラリアで過ごして私は多くの学びと気づきを得る事が出来ました。まず、大きな学びは「文化の違いを受け入れることの柔軟さ」の大切さです。日本で当たり前と思っていた習慣や考え方が必ずしも通じるわけではなかったです。例えば、時間に対する感覚、食事のスタイル、学校の授業の進め方など、日本とは異なる部分が日常生活の中で多くありました。最初は慣れなくて戸惑う事もあったけれど、自分からそれを否定してしまったら楽しむ事ができないと思い、前向きにオーストラリアの文化を知ろうと思ったらとても楽しく過ごす事が出来ました。その時に、自分の基準で判断せずに違いを尊重する事が大切だと強く感じました。また、英語でコミュニケーションを通して「伝える努力」の重要性も感じました。決して完璧な文法や発音でなくても、相手に理解してほしいという気持ちを込めて話す事で、会話を成立させる事が出来ました。

時々、自分の語彙力の無さにショックを受け、悔しい気持ちにもなりました。しかし、勇気を出して話すうちに相手の反応が変わっていく事を感じられた事がとても嬉しくて、「もっと話したい」、「間違えてもいいから挑戦する姿勢」が自分に自信を与え、英語を学ぶモチベーションにもつながったと思います。

さらに、ホストファミリーやバディーとの交流を通じて「人との繋がり温かさ」も学びました。私の言葉を最後まで聞いてくれたり、理解出来るまで伝えてくれたこと、買い物の終わりに店員さんが必ず笑顔で「have a nice day」と言ってくれたこと。些細な事かもしれないけれど私はそれらにたくさん救われました。言葉や文化の壁があっても心は通じ合える事を本当に強く感じました。

ホストファミリーが私を家族として快く迎え入れてくれたことは忘れられない経験になりました。そして、日本にいるときには当たり前に感じていた家族の存在のありがたさにも改めて気づかされ、感謝の気持ちを持つようになりました。

この留学は、語学力の向上だけでなく、自分の考え方や価値観を大きく広げてくれる貴重な機会だったと思います。異なる環境に身を置くことで、自分の弱点や課題も見えましたが、それ以上に自分の成長を実感できました。今後は、この経験を日常生活や学校生活に活かしてどんな環境でも前向きに挑戦できる人になりたいです。

私は、将来教育に関わる仕事がしたいと考えています。今回の留学で経験した「多様性の大切さ」や「コミュニケーションの工夫」などを未来の子どもたちに伝えていき、たくさんの人に海外の素晴らしさを感じて欲しいです。改めて、私が留学に行きたいと思った気持ちを尊重してくれた親や現地に関わった全ての人への感謝を忘れずにもっともっと成長していきたいです。

2 年 W さん

私がオーストラリアでの生活を通じて強く感じたことは、「人とコミュニケーションを取り、繋がることの大切さ」だった。多文化主義と多様性を重んじる国オーストラリアにおいて、人と自然に繋がることは、ごく当たり前の文化として根付いているように感じられた。

私が通ったオーモウッズ・ステイト・ハイスクールでは、校訓に「リスペクト」が掲げられていた。授業では座席が自由で、男女や年齢による区分もなく、生徒と先生がフラットな関係で会話をしていた。イヤホンの使用も授業に集中できるのであれば許可されるなど、「自由」と「リスペクト」が共存していた。このような環境は、留学生と現地の生徒との関係にも表れていた。

現地の生徒たちは非常にフレンドリーで、握手や挨拶、好奇心からの会話など、自然に交流を図ろうとしてくれました。言葉が通じにくい場面でも、簡単な言い回しに言い換えたり、翻訳機を使ったりと、相手に理解してもらおうと努力する姿勢がありました。また、年齢による上下関係を意識することなく、対等な態度で接してくれたことも印象的であった。

私のホストマザーであるニッキーは、幼少期からヨーロッパやアジアなどさまざまな地域で生活してきた経験を持っていた。そのため、異文化を自然に受け入れ、留学生が現地での経験を楽しめるように配慮してくれた。毎日の会話を通して、学校生活や文化の違いに対する感想を求めてくれるなど、異文化交流を積極的に促してくれた。

ホストファミリーの子供たちも同様で、公園やスーパーなど日常生活の中で常に話しかけたり遊びに誘ってくれたりし、好奇心と親しみやすさを強く感じた。

グリフィス大学を訪問した際にも、多様性が鮮明に表れていた。世界 130 カ国から留学生が集まり、キャンパスにはアボリジニやトレス海峡諸島民の旗が掲げられていた。そこには地理や時代にとらわれない、多民族国家としての努力と誇りが示されていた。

オーストラリアでの生活を通じて私は、異文化が日常的に存在し、それを誰もが尊重している社会の姿を体験した。差別のない安全で開かれた環境の中で、人と「繋がる」ことの重要性を改めて学んだ。この経験は、今後の私自身の生き方や他者との関わり方に大きな影響を与えるものである。

今回の留学で私が得られた最大の収穫は、「多様性を自然に受け入れる姿勢」と「人との関わりを恐れない積極性」である。現地の人々は文化や言語の違いを当たり前のものとして尊重し、相手の背景にかかわらずフラットに接していた。その姿から、異なる価値観を柔軟に受け入れる力の大切さを学んだ。また、友好的に話しかけてくれる環境に身を置いたことで、自分自身も臆することなく人に声をかける勇気を得ることができた。このような学びは、生涯の財産であると思った。

今回の体験を通じて、私を受け入れ、積極的に話しかけてくれた人々と、もっと深く会話ができればよかったと感じた。その背景には、自分の語彙力の不足があり、英語を十分に使いこなせなかった悔しさがあつた。したがって、これからは英語を話すことを日常生活に取り入れ、語学力を高めていきたい。また、オーストラリアで学んだように、相手を尊重し、受け入れることができる人間として成長していくことを課題としたい。

2 年 N さん

この二週間新しい経験ばかりで毎日が刺激的でした。海外に行くことも初めてだった私は、オーストラリアで生活をする中で日本との違いを感じる事が多々ありました。しかし、この経験は私の人生においてとても大事で記憶に残るものとなりました。私がこの留学研修プログラムに参加した理由は、主に二つあります。

一つ目は、自分の英語力をもっと上達させたかったからです。もともと「英語」の曲を聴いたり、映画を観たり、英語を使うことが好きだったので、日本での授業だけでなく、実際に英語を使う環境に行ってみたかったです。また海外の日本と異なる文化や習慣にとっても興味があったので、実際に行つてこの身で体験してみたいという思いが強かったです。

二つ目は、将来「英語」を使った国際的な仕事に就くことに憧れがあるからです。まだ、具体的な仕事や実際にそのような仕事に就くか決めているわけではありませんが、海外に行つたり英語を使った仕事に興味があるので、実際に海外に行ってみるによって、進路や将来への考え方が広がると考えました。

実際にオーストラリアでホストファミリーの家やお店、学校などで、日本との文化や習慣の違いを沢山感じました。まず家ではお風呂を 5 分で済ませないといけなかったり、学校では 2 回もお昼ご飯の時間があることにとても驚きました。ランチボックスも日本ととても異なっていて、スナックが沢山入っていて果物が丸々入っていました。

インテグレーションや英語の授業では自分の英語力のなさを痛感しました。自分が言いたいことを文として作れなかったり、単語が分からないことがありました。ランチの時間ではバディやその友達と食べましたが、何を言っているのか理解できないこともあり、悔しい思いをしました。その中でも好きな曲の話や学校の話などをして楽しく会話ができた時は達成感があって嬉しかったです。

ホストファミリーの家では、家族の人数が多かったのいろいろなコミュニケーションがとれました。休みの日や放課後にはショッピングや馬に餌をやりに行ったり、鶏を抱っこしたり、公園に行ったりといろいろなところに連れて行ってくれました。最終日には日本に帰りたくないなと思うくらいに、バディやホストファミリーと仲良くなれたことの喜びと同時にとても悲しい気持ちになりました。

私はこの留学を通して、人間関係の大切さを得ることができました。言語の壁を越えて交流できました。分からない言葉を教えてくれたり、道を教えてくれたりバディやホストファミリーはもちろん現地の学校の生徒たちも優しく支えてくれたので、支え合うことの大切さを実感しました。

そして積極性や自立心が成長したと思います。初めは緊張してしまい、あまり自分から話しかけられませんでした。だんだんと自分から質問をしたり会話をする勇氣を持てるようになりました。また家族のいない環境で生活をする中で、時には学校で日本人の友達がいらない一人の時などで、自分で考えて行動する力が育ったと感じました。自分の言いたいことが十分に表現できず悔しい思いをしたので語彙や表現をさらに増やす必要があると思いました。

これからは継続的に英語の勉強や英検取得のための勉強を積極的にしていこうと思いました。そしてこの素晴らしい経験をさせてくださった親や先生方、全ての方々への感謝を忘れずにこの経験を将来に生かしていきたいです。